

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

市では児童・生徒一人ひとりの基礎学力の定着状況を把握し、学力向上に向けた授業改善や学習指導に役立てるため、全国学力・学習状況調査の結果を活用しています。

今年度は、例年行われている国語、算数・数学に加え、理科も実施されました。

この調査は児童生徒の学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面であることに留意してご覧ください。

■調査日

令和4年4月19日（火）

■対象者

○小学校6年生

市内9小学校 393～394人

○中学校3年生

市内4中学校 454人～461人

※教科により参加児童生徒数が異なる

■調査内容

○教科に関する調査

○生活習慣や学習環境などに関する児童生徒質問紙調査

1 教科に関する調査

■調査科目

国語、算数・数学、理科

■調査結果

下表のとおり

○「平均正答率」欄は、千曲市全体の平均値と全国・長野県の公立小・中学校の平均値を比較しています。

○「結果の概要」欄は、市全体の状況を中心に記述しています。

調査科目		平均正答率	結果の概要
小学校 6年生	国語	全国・長野県と同程度	・指定された漢字を用いて、文章を正しく表現することができています。 ・話し合いの様子を描写した出題の中で、発言者の意図を理解することに課題があります。
	算数	全国・長野県と同程度	・問題の内容を理解し、答えを導くための過程を説明することができています。 ・割合、分数、百分率、比例等を関連させながら、問題を解くことに課題があります。

	理科	長野県と同程度であるが、全国よりやや下回る	・観察などで得た結果を、他者の意見等も参考にしながら、自分なりの考えを持つことができています。 ・水と水蒸気に関する出題に関し、知識や理解に課題があります。
中学校 3年生	国語	全国・長野県と同程度	・文脈に即して漢字を正しく書くことができています。 ・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題があります。
	数学	全国・長野県と同程度	・素因数分解はよく理解できています。 ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題があります。
	理科	全国・長野県と同程度	・節足動物の外部形態の観察結果に基づき、体のつくりと働きを分析して解釈できています。 ・気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、天気の変化を分析して解釈することに課題があります。

2 生活習慣や学習習慣などに関する児童生徒質問紙調査

■調査結果

下表のとおり

○生活習慣

「毎日朝食をとる」という基本的な生活習慣は、これまでと同様、ほぼ良好な結果です。テレビゲームをする時間が2時間以内というのは、全国の結果と比較すると良好ですが、4割程度の児童生徒は2時間以上やっている可能性があることから、ここは課題です。

○学習習慣

「学校の授業以外に普段1日当たりどれくらい勉強しますか」において、わずかではありますが、小学生は全国の結果を下回っています。

○GIGA スクール

学校での発表の場、友だちとの意見交換の場面でP C（一人一台端末）を活用している、との回答が全国の結果を大きく上回っており、市のGIGAスクール構想充実に向けた取り組みの成果が表れています。

○地域に関わる活動

「地域の行事に参加していますか」「地域のために何をすべきか考えますか」の問いは、全国の結果と比べて良好であり、キャリア教育、コミュニティスクール（ふるさと学習を含む）の取り組みの成果と考えます。

区 分	質 問	はいと回答した割合 ()は令和3年度		全国との比較
		小学校 6年生	中学校 3年生	
生活習慣	朝食を毎日食べていますか	96.7 (97.1)	95.0 (95.2)	全国と比べて、小6児童、中3生徒とも上回っています。
	平日にテレビゲームをするのは2時間以内ですか	60.5 (62.4)	57.8 (50.6)	全国と比べて、小6児童、中3生徒とも上回っています。

家庭学習習慣	学校の授業以外に、平日1時間以上勉強していますか	56.4 (62.5)	71.5 (72.4)	全国と比べて、小6児童は下回っています。中3生徒は上回っています。
GIGA スクール	学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、週3回以上PC（一人一台端末）を使っていますか	36.7 (未実施)	37.5 (未実施)	全国と比べて、小6児童、中3生徒とも大きく上回っています。
地域とのつながり	今住んでいる地域の行事に参加していますか	81.2 (75.3)	68.2 (72.4)	全国と比べて、小6児童、中3生徒とも大きく上回っています。
	地域をよくするために何をすべきか考えますか	63.6 (59.5)	51.1 (52.3)	全国と比べて、小6児童、中3生徒とも上回っています。

※「はいと回答した割合」の数値は、1 当てはまる、2 どちらかといえば当てはまる、3 どちらかといえば当てはまらない、4 当てはまらない のうち「1、2」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

3 今後の対応について

■各学校

- 調査結果を全職員で分析・考察し、これまでの指導の成果と課題を明確にしたうえで改善策、向上策を策定します。また、これらの対応策は、学校経営ビジョンとリンクさせ、児童一人ひとりの学力の向上を目指し、全教職員で取り組んでいきます。
- 基本的な生活・学習習慣の確立が学力の定着、向上を図るうえで重要であるとの認識に立ち、家庭と連携して、家庭学習と余暇の過ごし方（ゲームなどをする時間）のバランスが整うような取り組みを進めていきます。
- 児童生徒個々の結果については、個別懇談会などを通じて伝えるとともに、それぞれの課題に応じた学習指導を適切に行っていきます。

■市学力向上推進委員会

- 市内小中学校の学力向上推進委員が中心となり、今回の結果を分析し、「授業改善のポイント」「生活・学習習慣改善のポイント」などを提言し、各校の授業改善、児童生徒の学習習慣の定着に生かします。

■教育委員会

- 市内小中学校の状況を共有するとともに、各校の状況に応じ必要な指導や支援を行います。また、GIGA スクール構想、ふるさと学習をはじめとした教育施策の充実に努めます。